

選択授業 「情報演習」 プール学院高等学校

日 時： 平成18年11月9日 5, 6時間目 13:00~14:40

担当者： 村上 徹 (むらかみとおる) (ドミニカ共和国 職業技術訓練庁)

学年組： 高校3年 (私立大文系コース選択授業、45名)

授 業： 選択授業 「情報演習」

| | |
|------|--|
| 題材 | ドミニカ共和国と国際理解 |
| 目標 | 途上国についての正しい理解をインターネットから収集するのと実際に見てきた人から話を聞くのとの違いを感じ取る。 異文化理解についての思考習慣を身につける 異文化を理解することによって自分の文化を見直す。 |
| 指導計画 | 国際理解としてドミニカ共和国の紹介をするときにはプレゼンテーションソフトを用い、写真や図を見せて理解を促す。 ドミニカの情報教育の話はド国の教科書を見ながらそのイメージを伝える。 ドミニカの音楽を聴いてみる。 異文化理解についての時間はプリントを用いて一つの考え方を提示する。プリントにすることによって授業後に読み直すことができる。 その後生徒同士でディスカッションする機会を出来るだけたくさんもてるようにする。 話し合った内容について発表してもらう。 |
| 留意点 | 事前授業として、ドミニカにいる間にインターネットを経由してドミニカや途上国について、国際協力などのテーマの遠隔授業を行っている。実際の Face to face の授業との相違を感じ取れるようにする。 授業で話をする「ドミニカ情報」は途上国の全てではないこと、またドミニカの全てではないことを理解してもらう。 異文化＝海外の文化ではないということを理解させる。 理解とは知ること、納得すること、わかること。真似をする必要もないし、強要してはいけないということを自発的に感じ取ってもらうようにする。 |

学習指導計画

本時の指導案

| 第5限 ドミニカ共和国紹介 | | |
|---------------|---|---|
| 本時の目標 | 開発途上国についてネットなどで調べたことと、事実について同じと思う点、違っていたと思う点を認識する | |
| 評価の観点 | 生徒たちが本授業以前にもっている開発途上国のイメージと授業後のイメージがどのように変わったか。 | |
| 時間 | 段階 | 学習活動 |
| 5分 | 導入 | ドミニカの音楽について話をし、この時間は音楽（メレンゲ・バチャータ）をバックにかける（この時間は聞いてもらうことが多くなると思うので音楽をかけたままにする。リラックスしたムードで授業をする） |
| 30分 | 展開 | <p>自己紹介とドミニカ共和国に行こうと思ったきっかけについて JICAのボランティアとしての位置づけ（例パスポートが違う）</p> <p>スライドを見せながら途上国のイメージをドミニカ共和国のイメージを感じ取ってもらう</p> <p>現地での不思議に思うこと、困ったことなどの話をしながらドミニカの文化をつたえる</p> <p>現地の新聞から広告のページを見ながらその国の様子をうかがう （新聞をドミニカに置き忘れたようなので今回はありません）</p> |
| 15分 | まとめ | 一言に開発途上国といってもいろいろな面がある。 一つの国でも多様な面をもっている |

本時の指導案

| 第6限 異文化理解 | | |
|----------------------|---|---|
| 本時の目標 | 海外ばかりが異文化ではない。自分と違うことが異文化であることへの理解。異文化を理解するとはどうすることかを考える習慣を付ける。 異文化を理解しようとしたら自文化を理解しなければならない | |
| 評価の観点 | グループに分けてディスカッションをする。 ディスカッションした内容をまとめて発表する。 | |
| 時間 | 段階 | 学習活動 |
| 5分 | 導入 | 異文化とは身近なところにある。例を挙げて説明する。 同時にプリントも配布。 |
| 30分 (5分) (10分) | 展開 | 異文化理解を考える 異文化とは何かについて (講義) 私の異文化体験 (意見交換) |
| (10分) (5分) | | 日本の文化を伝えることができますか? (意見交換) 日本文化 (自分の文化) について (講義) 10分程度の話し合いで、その内容を発表する。 |
| 5分 | まとめ | 異文化理解とは 相手を知ること 認めること 尊重し合うこと |
| 10分 | まとめ | ブレストボードを使って記入してもらう |